

感染症 ひとくち情報

西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行について

2014年11月20日
東京都健康安全研究センター

1 エボラ出血熱とは

エボラウイルスに感染した動物や人に接触することにより感染する病気です。重症となった場合は致死率が高い病気で、現在、西アフリカ（ギニア、リベリア、シエラレオネ）で大規模な流行が続いています。



2 感染経路

エボラ出血熱に感染している人の血液、吐物、糞便等に直接接触することにより感染します。症状が出ていない人から感染することはありません。また、空気や食べ物から感染することはありません。

3 潜伏期間・症状

感染していた場合、2～21日（通常は7日程度）の潜伏期の後、突然の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の症状を呈します。次いで嘔吐、下痢、胸部痛、出血（吐血・下血）が現れます。治療は患者の症状に応じた治療（対処療法）を行います。今のところ予防のためのワクチンはありません。

4 西アフリカに渡航した方へ

現在、西アフリカの流行地域に渡航歴のある方については検疫所で健康監視を行っています。健康監視の対象者になっている方で発熱等の症状が出た場合には自宅に待機し、医療機関に受診する前に最寄りの保健所に連絡してください。

■ 最寄りの保健所

23区・八王子市・町田市は区・市の保健所へ、それ以外の地域は都の保健所へご連絡ください

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shisetsu/hc.html>



5 国・都の対応

流行地域は現時点では西アフリカに限定されていることから国内で発生するリスクは低いと考えられます。国や都では万一国内で患者が発生した場合に備え、患者発生時の体制を整えています。



東京都感染症情報センターの「エボラ出血熱」のページもご参照ください。

エボラ出血熱 東京都

検索